

大豆「里のほほえみ」の良質安定生産栽培の実証

要約

「里のほほえみ」で播種量約 4kg/10a(対照区)と約 5kg/10a(供試区)の栽培試験を実施した結果、供試区は単位面積当たりの莢数が確保され安定生産を実証することができた。

○ 展示のねらい

「里のほほえみ」の収量および品質(病害粒・裂皮粒・しわ粒)が安定する播種量について栽培法を検討・実証する。

展示内容

区名	供試区	対照区	備考
土づくり肥料	粒状苦土炭カル、石灰窒素、塩化加里		
排水対策	畝立同時播種による出芽の安定化		
施肥	大豆専用ひとふりくん(15-18-18): 40kg/10a		
播種量	5kg/10a	4kg/10a	
播種日	6月18日		

○ 主な成果

収量(坪刈調査)は供試区237kg/10a、対照区227kg/10aで対照区比105%となった。収量構成要素別では一株莢数88%、一莢粒数101%、百粒重96%と供試区は対照区に比べやや劣ったが、m²当たり莢数は105%となり収量が確保された。

品質はしわ粒・裂皮粒率は供試区17.6% (対照区差-1.8%) と少なくなった。

平均茎径については供試区 9.97mm、対照区 11.95mm とやや細く茎の青立症状について軽減された。そのため、播種量の差による「里のほほえみ」の栽培では供試区が良好で 4.5～5kg/10a 程度の播種量は必要と思われる。

収量調査結果

項目	整粒重 kg/10a	一株莢数	m ² 当莢数 数	一莢粒数 数	百粒重 g	大粒率 %	しわ粒・裂皮 粒率 %	べと病粒率 %	平均茎径 mm
供試区	237.3	50.2	627.5	2.10	38.6	87.5%	17.6%	20.6%	9.97
対照区	226.9	56.8	596.4	2.07	40.3	88.6%	19.4%	21.0%	11.95
比・差	105%	88%	105%	101%	96%	99%	91%	98%	83%

○ 今後の方向性

高品質安定生産を更に推進するため、茎の青立症状対策について検討が必要である。

実施機関： 那須農業振興事務所経営普及部 実施場所： 那須塩原市

問合せ先： 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315